

岡山市入札外部審議委員会の概要

平成27年度第2回岡山市入札外部審議委員会（以下「審議委員会」という。）を下記のとおり開催しましたので、その概要についてお知らせいたします。

記

1 開催日

平成27年8月7日（金） 午前10時00分から午前11時20分

2 開催場所

岡山市庁舎 5階入札室

3 出席委員（敬称略 五十音順）

井上 信二，岡崎 優子，妹尾 直人，松本 正子，的場 真介

4 事務局

（1）岡山市

森安審議監，大島工事契約担当課長，岡本契約課課長補佐，林契約課課長補佐，
藤本工事契約係長，山本契約課副主査，徳丸契約課主任

※森安審議監，山本契約課副主査は所要のため「1 岡山市報告」の後に退席

（2）水道局

小林統括審議監，浅田管財課長，國富管財課課長代理，樋口契約係長，高田管財課主任，平山管財課主任

5 会議次第

（1）開会

（2）議題

- 1 岡山市抽出議案について審議
- 2 岡山市水道局抽出議案について審議
- 3 その他

6 会議概要

岡山市から報告

(事務局から、本市教育委員会発注の施設修繕契約において入札談合等関与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律違反で職員が逮捕された件及びその関連事項について報告を行った。)

1-1 岡山市抽出議案「岡山市立鹿田小学校校舎耐震改築工事」について

Q：岡山市ではWTO対象入札というのは、年間大体どのくらいあるか。

A：建設工事では、今年度は2件だが、通常年間1件あるかないかくらい。業務委託や物品購入では、対象となる基準額が低いので、年間何件も対象入札がある。

Q：総合評価落札方式において、入札額は低かったのに、技術評価点が悪くて結果として落札者が変更になるということはあるか。

A：技術評価点の結果で順位が変わる場合もある。

Q：価格の評価はどのように行うのか。

A：本市の総合評価一般競争入札で多く使われている除算方式では、技術評価点に1億を掛け、それを入札価格で割って得た数値が総合評価点となる。今回の工事については、入札価格も技術評価点についても1位であった業者が落札した。

Q：技術評価点の、配点はどのように決められているか。

A：総合評価一般競争入札（特別簡易型・簡易型）落札者決定基準において、標準的な評価項目と評価点数を定めている。しかし、今回はWTO対象入札であるため、さらに内部で評価項目等について検討して決めた。

Q：WTO対象入札であるため、地域に関する項目を削っているが、その削った項目の配点を、同じ大分類のほかの項目に振り替えている関係上、残った項目の配点が、相対的に高くなっているのではないかと思うが…。

A：総合計点を変えずに割り振ったところこのような配点となった。配点については、今後さらに検討が必要と考えている。

Q：入札金額に関する評価と技術に関する評価の配点の割合はどうなっているのか。

A：今回の総合評価落札方式では、除算方式を用いているため、技術に関する得点を入札金額で割っている。よって、単純に配点の割合は示すことができない。

Q：割合に分けて足し算（加算方式）であれば、それぞれの評価が、全体に影響する上限が決まると思うが、除算方式では、金額が安ければ安いほど総合評価点を押し上げることにならないか。

A：そうなる。ただし、あまりにも低価格な入札金額については、低入札価格調査を行い、ダンピング受注を防いでいる。

Q：除算方式が一般的なのか。

A:高度技術提案型などの特別な型式の総合評価であれば別だが、特別簡易型については除算方式で行っている。

1-2 岡山市抽出議案「国民健康保険特定健康診査受診券」について

Q:印刷を発注する際に、個人情報保護の観点から画像データを業者に渡す場合と、印刷や管理の観点からテキストデータを業者に渡す場合の総合的な比較検討という問題になると思う。画像データを渡す場合、業者はそれを一度テキストデータに変換する業務が必要になるのか。

A:変換は行わず、その画像データのまま焼き付けている。帳票や枠線はあらかじめ印刷されている用紙を使用するが、個人情報に係る部分は、コピーのようなイメージで焼き付けることになる。

Q:テキストデータで提供する場合ほどのようなメリットがあるか。

A:印刷会社独自のやりようではあるが、印刷会社が製品管理をするために、それぞれのデータを統括する番号を作成し、その番号やQRコード等を使う事によって、製品や工程を管理し、完成品の精度を高めている。岡山市の場合は情報を抜き取られる可能性を減少させるため、現在は、画像データで提供する場合が多い。

Q:データの提供の仕方によって、業者側のコストが変わるか。

A:テキストデータでの提供の方が安くなる。例えば、並べ替えが必要な時もスムーズにできるし、それぞれの段階で製品管理ナンバーやコードを読み取ってチェックをかけることができる。最終的に出来上がった封筒群から送付不要となった封筒を引き抜く作業が発生するが、製品管理ナンバーやコードできっちり管理していると、間違えることなく短時間で抜き取ることができる。要は手作業部分を非常に減らすことができ、さらに納入品としても質が高くなると言える。

Q:ということは、今の岡山市が採用している方法は、人の手が入ることが多いということか。

A:そうなる。

Q:他の自治体ではどうか。

A:官公庁などでは、どちらが大多数というほどではないようだ。ただし、現在自分の家に届けられる民間企業からのダイレクトメール等を見るとわかるが、ほとんどのが製品管理ナンバーやコード等を印刷してあると思う。

Q:官公庁では、個人情報に対するセキュリティを優先しているとも言える。これは難しいところである。セキュリティは重要視すべきだと思うが、不必要に嚴重にすることで価格が跳ね上がるのもどうかと思う。

Q:契約業者とセキュリティに関する契約を行う事で防ぐことはできないのか。

Q:契約業者だけではなく、下請けも含めた事務従事者の問題もある、どんなに契約上

で管理してもなかなか難しいと思う。

Q:個人情報漏洩事故が起こった時のリカバリーの可能性とか、予想される災害がどの程度のものかというバランスにもよると思う。流出すると取り返しが付かないものに関しては、印刷や管理の利便性とかいう話ではなくなるだろうし。最大限の災害を抑えるためにどこまでコストをかけなければいけないかというバランスの問題。科学技術も進歩、変化していくものであるから、その時代の考え方に則して考えていくしかないのではないか。

Q:公共契約における入札・契約の問題ではなくて、セキュリティ一般の問題なのではないかと思うので、全庁的に議論すべき事項ではないか。こういったリスクが顕在化するのを見極めたうえで、対応を考えていくべき。

2-1 岡山市水道局抽出事案「岡山市水道局本局庁舎建築その他工事」について

Q:水道局の庁舎地下にステンレス製の大きな貯水槽みたいなものが入るという事だが、何のために、どの程度の大きさのものが作られるのか。

A:大きさは、直径が 2.6m、長さが 4.5m。普段は水が通っているが、地震が起こった際に、すぐに遮断して、非常用の飲料水として確保するようになっている。西大寺の百科プラザの公園の中にも設置している。

2-2 岡山市水道局抽出事案「水道メータ売却及び銅合金くず売却」について

Q:以前報告を受けた時は、これまで分解せずに売却していた水道メータを、福祉施設等に分解作業委託するとのことであった。今回の報告は、これまでのように分解せずに、そのまま売却するよりも、分解作業をしたうえで売却した方が、分解作業委託料を考慮しても経済的にメリットがあるという結果となり、とても喜ばしい。

A:マイナスにはなっていない結果であった。

Q:財政的にも悪影響がないのであれば、今後も同じように進めて欲しい。

A:今年度も同様に試行することとしている。まだ試行錯誤の段階であり、昨年度と同様の2団体へ分解分別業務を委託している。

Q:福祉施策としてコストをかけて、ということではなくて、福祉施設等が分解することで市にとって財政的に有利になっている。障害者の社会貢献も含めて、この仕組みは本当に良い事だと思う。推進して欲しい。

(終了)